

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

①

今年は150号の力作「樹」で、第71回全道展最高賞の全道美術協会賞を受賞した。3年連続入選し、4度目で頂点に。道内三大公募展(道展、全道展、新道展)の最高

募展への挑戦は退職後から。釧美展では2012年に釧路新聞社賞、14年で会友、16年に会員になった。

絵画のジャンルにこだわらず、貪欲に独自の表現法を追

亡くした。60歳の時、公募展参加への背中を押してくれたのも齋藤さんだった。「あの人がいなければ、今の私はいなかった」。謙虚に努力し、描くことに感謝する。恩師の言葉が、いつも心から離れない。

今年度からは根室市文化協会長に就任し、市全体の文化振興にも力を注ぐ。「この賞を力に、今後も切磋琢磨して進

独自の表現法を求めめる

賞は根室市内で初の快挙。釧新郷土芸術賞受賞は、根室市では1973年の作曲家・故飯田三郎氏の特別賞以来となる。

厚岸町出身。30代半ばに成人学校で油彩を学んだ。修了生でグループピア会を結成して会長となり、会の作品展は今年で32回目を数えた。公

い求めてきた。公募展で審査員らに「何を描きたいのか」と問われ、模索を続けて点描による抽象画にたどりついた。しかし「今後、どう変化するかは自分でも分からない」。

10月には成人学校時代からの恩師で、市内在住の画家・齋藤宗吉さん(享年97歳)を

◇

公益財団法人釧新教育芸術振興基金の2016年度釧新郷土芸術賞は3個人と特別賞1団体に贈られる。その横顔、業績を4回にわたって紹介する。

絵画 (油彩)

宇佐美修一さん(67)＝根室市



2011年にセピア展に出品した「初秋・春国袋」とともに宇佐美さん